



VOL. 20 No. 3 The University of the Ryukyus Library Bulletin. 1987. 9. 1

大型コレクション『移民資料伯刺西爾（ブラジル）行
移民名簿』などについて

石川友紀

1986年（昭和61）度において、文部省の予算により図書資料（大型コレクション）の一つとして『移民資料伯刺爾行移民名簿』がマイクロフィルムで、琉大附属図書館に入るようになったことは、全国有数の移民県である当地の大学として、極力移民資料収集に取り組み始めた矢先でもあり、大変喜ばしいことである。以下、若干同コレクションの解説を行い、多くの方々のご利用をお勧めしたい。

『移民資料伯刺爾行移民名簿（乗船名簿）』は1978年（昭和53）ブラジル渡航日本移民70周年を記念して設立されたブラジル日本移民史料館（サンパウロ市在）所蔵のもので、同コレクションは国立国会図書館の監修により、日本マイクロ写真株式会社が1985年（昭和60）8月に製作したマイクロフィルムである。

目次

大型コレクション「移民資料伯刺西爾行 移民名簿」などについて 石川友紀 ……	1	新着図書案内 ……	18
図書館業務電算化日録 ……	8	ブラウジングコーナー ……	21
「沖縄研究史」書誌稿（続） 新城安善 ……	9	図書館事情 ……	22
		医学部分館コーナー ……	23

同乗船名簿の内容をみると、日本からブラジルへの第1回移民がサントス港へ到着した1908年（明治41）6月18日の笠戸丸（かさとまる）から始まり、1941年（昭和16）8月12日サントス港到着の海外興業株式会社取り扱いの第306回ぶえのすあいれす丸まで、約15万人にも及ぶ乗船者名が47リールに収められている。そして、48リールから51リールまでが第2次世界大戦後日本からブラジルへ渡った第1回移民の1952年（昭和27）12月から、1963年（昭和38）12月までの乗船者の名簿である。

この乗船名簿の書式についてみると、長期にわたるので年次を経るにつれ変遷し、多くの項目からなる詳細に記載された名簿から、単に氏名・生年月日・出身地など簡単に記載されたものまで種々みられる。なかには、移民の渡航後の状況、たとえば、その耕地をいつ出て、どこへ移動したかなど、追跡調査の記載のあるものもあり興味深い。そこで、この乗船名簿の一部を取り上げ、どのような記載事項があるかを例示してみよう。

事例1：第1回船 笠戸丸移民

○1 ページ目

明治41年 4月27日 神戸発

明治41年 6月18日 サントス着

笠戸丸

竹村第一回移民原簿

当原簿皇国移民即チ本邦移民ノ嚆矢ノモノナリトス

○移民（乗船者）名簿…個票でカード形式、以下記載項目。

LEVA/FAZENDA/ESTACAO/No.de familias/NO./Parenteado/NOME/IDADE/
OBSERVACAO/NO./MUDOU PARA/DATA/Profissao/SALARIO/KEN GUN SON AZA
NO.

○沖縄県出身移民名簿の一例

家長 新里樽 FAZENDA Chanan

沖縄KEN 中頭GUN 中城SON AZA 安谷屋 No.1765

事例2：東洋移民合資会社取り扱い 第1回船 神奈川丸移民

○1 ページ目

神奈川丸 東洋移民会社 第1回

南米伯刺西爾国「サンパウロ」州行

移民総人員 1,416名（外ニ呼寄3名）

明治45年 3月10日 神戸港出帆

明治45年 4月25日 サントス港到着

○沖縄県出身移民名簿の一例

家長 古波津文平 沖縄県国頭郡羽地村字仲尾次254番地 明治45年 2月 9日 沖縄県渡航許可

05-8

No.		平民		住 所	
旅券及移民 番 號	渡航許可 年 月 日	家長ト ノ關係	氏 名	生年月日 及 年 齡	住 所
23A42	沖繩縣 明治45.2.9	家長	古波津文平	明治14.2.4	沖縄縣國頭郡明地村字 254番地
27		妻	マツ	25.2	同前
28		二男	清寛	14.8.13	同前
29		三男	清雄	30.8	同前
30		家長姪	カマト	46.7.22	同前
23A43				44.12.30	同前
31				28.11.28	517番地
				16.5	

併・地主 Rodriguez Abou Janso
就勞耕地 S. Maria Sanna S. Francisco
最近停車場 Rodriguez Alves

明治四十五年七月三十日全家脱逃 (大正元年九月十一日 伯國省版所報告)

事例3：海外興業株式会社取り扱い 第215回船 りおでじゃねろ丸

○1 ページ目

第215回 りおでじゃねろ丸

神戸発 昭和9年1月20日

サントス着 昭和9年3月4日

輸送監督 柿沼金彌

輸送監督助手 渡部萬次郎

○2 ページ目

No.215 RIO DE JANEIRO MARU

4-3-1934、以下つぎの記載項目の順による表である。

No./PROPRIETARIO/Fazenda/Estacao/Linha/No. de familias/Trato de cafe por mil pes/

COLHEITA de cafe um sacco com ...litros/Dias de servicio sem comida/Pagamento/Interprete/

Observacoes

調査（昭和13年～15年）アルバム及び調査表』の復刻版セットが購入所蔵されているので取り上げてみよう。このブラジルにおける日本移民の歴史調査は栗原自然科学研究所が1938年（昭和13）から1940年にかけてサントス＝ジュキア線、パウリスタ線、ノロエステ線の鉄道沿線の日本人移民地（現地では植民地と称す）を調査記録したものであり、その成果が移民家族毎の写真と調査表の個票で残されている。なお、本館所蔵のものは後記するような15の植民地でアルバムと調査表各13冊からなる。また、アルバムの世帯写真数が合計1,113枚、植民地風景及びその他の写真数が464枚、世帯構成調査表が1,207枚である。

因みに、アルバムの内容を紹介しますと、植民地の風景写真や略図、小学校等公共の建物や各世帯毎の写真、植民地の草分や歴代の日本人会会長名、邦人家族数や人口の記録などがみられる。調査表の内容をみると、家族全員の名前・家長との続柄・性別・生年月日・年齢・宗教・配偶者の有無・本籍・前職業（日本・ブラジル）・着伯・船名・現在地居住年限・最初の配耕地・職業－農業（地主・借地・請負・コロノ）、商工業其他・備考－移動してきた植民地等とその居住期間、帰国・死亡・役職名などが挙げられている。

標高 155.6m

在伯日本移民歴史調査用紙

駅 Hatiriy 地名 Boa Vista 番號 59

所屬日本人會名 イタリヤ人會

家族關係		男女	生年月日	年齢	宗教	配偶の有無	通婚の有無	職業	農業		商工業其他	
家	長								地	借	請負	コロン
家	長	松川清藏	男	明治23年7月20日生	50才	佛	有	業	主	地	コロン	其他
家	次	全三右	女	明治26年6月10日生	47才	有						
家	次	全清郎	男	大正12年8月29日生	17才	(60)						
家	次	全和	男	昭和2年10月10日生	15才	有						
家	次	全三右	男	昭和2年12月27日生	13才	有						
家	次	全三右	女	昭和5年5月26日生	10才	有						
家	次	全三右	男	昭和7年5月25日生	8才	有						
家	次	全三右	女	昭和12年2月24日生	5才	有						
家	次	全三右	女	昭和12年9月6日生	3才	有						
本籍	沖繩 府 郡 町 村			前職業	日本では 農		ブラジルでは 農					
着伯	大正 3 年 5 月			日遊便	現在地居住年限	23年		最初配耕地	アラウカバラ (15畝)			
備考	長男 輝周											

昭和34年 9月25日調査 栗原自然科学研究所歴史調査班

ここで、この栗原自然科学研究所歴史調査班の調査になる『在伯日本移民歴史調査写真帳』と『在伯日本移民歴史調査表』のセットでみられる15の植民地（移民地）名と調査年月を記しておこう。（植民地名等は石川友紀・町田宗博「ブラジル国サンパウロ市カーザベルデ地区における沖縄県出身移民の分布と職業構成」『琉球大学法文学部紀要』史学・地理学篇第30号、1987年を参照）

植 民 地 名	鉄 道 線	調 査 年 月
①ペードロデトレード	サントス＝ジュキア線	昭和14年6, 7月調査
②イタリリー	同 上	昭和14年9月
③ビグアー	同 上	昭和14年10, 11月
④アンナディアス	同 上	昭和14年12月
⑤ペルーベ	同 上	同 上
⑥ラポーゾタヴァーレス	同 上	昭和14年12月
⑦プライーニヤ	同 上	昭和15年1月
⑧福寿 (第一・第二)	パウリスタ延長線 ドアルチーナ駅	昭和14年7月
⑨旭	同 上	昭和14年10月
⑩バーラグランデ	パウリスタ線	昭和14年12月
⑪イタニヤエン	サントス＝ジュキア線	昭和15年1月
⑫イベラ	同 上	同 上
⑬ペードロバーロス	同 上	昭和15年7月
⑭平野	同 上 カフェランジャ駅	昭和13年9月
⑮上塚 (プロミッソン)	ノロエステ線 ボンスセッソ	昭和13年12月

特に、当時サントス＝ジュキア鉄道沿線には沖縄県出身移民が多く、このアルバム及び調査表の8～9割は沖縄県移民の名簿となっている。現在でも同地域には沖縄県移民が比較的多くみられるが、人口の都市集中化など時代の趨勢で、サンパウロ市やその周辺へ移動した人々が多い。このアルバムと調査表により当時の移民の実態がよく知られ、関係者にとっては得がたい記録であり、懐かしさの増すものであろう。

なお、同歴史調査のはほぼ40年後、1978年(昭和53)以降琉大法文学部地理学教室のプロジェクトとして文部省科研費補助金により、海外学術調査「南米における沖縄県出身移民に関する地理学的研究」を継続しているが、この個人面接調査票の様式と上記の調査表とがよく類似していることには驚かされた。今後、両調査の比較研究も実施したいと考えている。

明治時代の日本移民についての資料として、本館にはつぎの2つの詳細な報告書の叢書がある。まず、榎本武揚の設立した殖民協会の機関紙である『殖民協会報告』全13巻別冊1(全100号、図表10余枚、明治26～34年、復刻版、不二出版、1986～1987年)は日本移民及び日本移民史研究にとって極めて利用価値の高い学術研究報告書である。同報告書は外務省領事等による海外探検の実況報告や殖民事業の実際研究を目的とする移殖地事情の報告書を中心に、論説・論談・雑録、会報などからなりたつ。その対象とする国あるいは地域は、北米ではアメリカ合衆国・カナダ・アラスカ・中米ではメキシコ・ニカラグア・グワテマラ・コスタリカ・仏領グアドループ島、南米ではペルー・コロンビア・ボリビア・パラグアイ・ブラジル・アルゼンチン、東南アジアではフィ

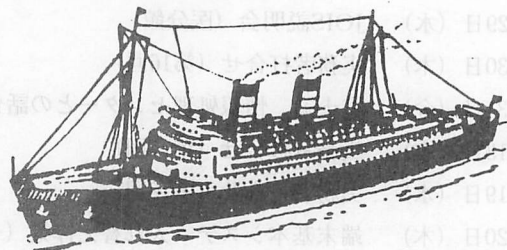
リッピン群島・マレー半島・仏領インドシナ・北ボルネオ・シャム・ジャワ・インド、大洋州ではハワイ・オーストラリア・サースデー島・ニューヘブリジス諸島・仏領ニューカレドニア島・サモア島、極東アジアでは清国・朝鮮・台湾・シベリアなどで、実に広範囲に及んでいる。

二つ目の移民関係資料は外務省通商局の編纂になる『移民調査報告』全12冊（第1回～第13回報告、明治41～大正3年、復刻版、雄松堂出版、1986年）であるが、同報告書は日本政府による初めての本格的な移民動向調査の集大成である。その内容は日本人移民の実態を詳細に記すのみならず、移民先国や移住地の地理・歴史・政治・経済・社会・文化など広範な分野にわたる総合地誌の性格をもつものである。調査対象地域は当時日本移民が活躍していたアメリカ合衆国・ハワイ・メキシコ・ブラジル・ペルー・アルゼンチン・フィリッピン・マレーシア・インドネシアなど、先の『殖民協会報告』の調査地域と重なる場合が多い。

最近、移民先国の日本語（邦字）新聞を収集し、一次資料として保存し、それを研究対象とする分野の研究が現われている。また、移民研究にとっても日本語新聞は基礎資料として重要なものである。本館にも昭和59年度の文部省の予算措置により、図書資料（大型コレクション）としてアメリカ合衆国ハワイ州ホノルル市において発刊されていた日本語新聞の『ハワイタイムズ』（The Hawaii Times）のバックナンバーである1936年1月から1969年4月までの日刊紙のマイクロフィルム136リールが購入保存されている。その後日本語新聞については、昭和60年度の沖縄関係文献資料として日刊紙『羅府新報』（Rafu Shimpo, ロサンゼルス）が1914年7月～1942年3月、1946年1月～1980年2月の276リール、日刊紙『ハワイ報知』（The Hawaii Hochi, ホノルル）が1942年1月～1958年12月の46リールが収納されている。

かくて、数少ないが着々と大型コレクションとして移民関係資料も揃いだししているので、この資料を利用した日本及び沖縄移民研究の進展を期待したいものである。（1987. 8. 12. 記）

（いしかわ ともり：法文学部教授・地理学）



〈図書館業務電算化通信 No 6〉

医学部分館閲覧業務の電算化

附属図書館では57年10月末の本館の閲覧業務以来、雑誌受人、学術情報センターとの接続、目録登録と、業務の電算化を進めてきていますが、この秋には医学部分館の閲覧業務を電算化することになりました。夏休みの期間を利用して蔵書の書誌情報の入力を終え、予定どおりにいくと10月からは医学部分館でも機械貸出になります。貸出・返却は基本的には本館と全く同様な手続きとなります。

開始にあたっては掲示などでお知らせいたしますが、よろしくご協力下さい。

図書館業務電算化日録

昭和62年6月～8月

- 6月1日(月) BASIC館内研修会(第1～16回、～7/8)
- 6日(土) 富士通、情報処理センターとの話し合い(ILIS正式版導入スケジュールについて)
- 8日(月) 経理課との話し合い(学内研修について)
- 9日(火) 情報処理係との打合せ
- 10日(水) 実務者打合せ(第14回)
- 11日(木) TSS、PFD館内講習会
- 29日(月) 医分館、書誌データ入力外注(～8/15)
- 7月2日(木) 雑誌受入ファイル容量拡張作業(～3日)
- 6日(月) PL/I 研修会(1～36回、～8/31、継続)
- 8日(水) 実務者打合せ(第15回)
- 21日(火) URISONプログラム修正作業(～24日)
- 27日(月) 八重山、熱研でのURISONデモ成功
- 29日(水) JOIS説明会(医分館)
- 30日(木) 実務者打合せ(第16回)
- 31日(金) 富士通、情報処理センターとの話し合い(導入スケジュールの確認等)
- 8月13日(木) 実務者打合せ(第17回)
- 19日(水) 実務者打合せ(第18回)
- 20日(木) 端末基本システム入れ替え作業(～26日)
- 26日(水) 富士通、情報処理センターとの話し合い(スケジュール確認等)
- 27日(木) 実務者打合せ(第19回)

「沖縄研究史」書誌稿 (続)

新城 安善 編

- 1) この書誌稿は、「びぶりお」第47号～第50号(1980. 9)～1981. 4)の続編としてまとめたものである。
- 2) フレーム・ワークについては、前回の趣旨にもとづいているので割愛することにした。
- 3) 内容構成は、総説、考古、歴史、社会・民俗、教育、言語、文学、奄美篇にまとめ、1978年3月末現在のものを取りあげてある。
- 4) 書誌事項
各篇の配列は、発行及び発表された年月順、「」は逐次刊行物、『』は刊本を示し、著者及び執筆者は()におさめた。

総説篇

- 沖縄研究 現状と課題 1～2 琉球民俗文化研究の諸課題(村武精一) 「沖縄タイムス」
1973年3月2日～3日
- 沖縄研究 現状と課題 3 民俗地図帳への希求(小川 徹) 「沖縄タイムス」 1973年3月
6日
- 沖縄研究 現状と課題 4 沖縄における外来宗教の受容(宮家 準) 「沖縄タイムス」
1973年3月7日
- 沖縄研究 現状と課題 5 破壊される島の習俗(野口武徳) 「沖縄タイムス」 1973年3月
8日
- 沖縄研究 現状と課題 6 沖縄の人類的研究(木村邦彦) 「沖縄タイムス」 1973年3月9
日
- 沖縄研究 現状と課題 7 沖縄文学と近世(池宮正治) 「沖縄タイムス」 1973年3月10日
- 沖縄研究 現状と課題 8 八重山の御嶽と村落の構造(宮良高弘) 「沖縄タイムス」 1973
年3月13日
- 沖縄研究 現状と課題 9 急を要する方言研究(服部四郎) 「沖縄タイムス」 1973年3月
14日
- 沖縄研究 現状と課題 10 琉球方言研究の展望と今後の問題点(中本正智) 「沖縄タイム
ス」1973年3月16日
- 沖縄研究 現状と課題 11 「現代文学の場合」(仲程昌徳) 「沖縄タイムス」 1973年3月
17日
- 沖縄研究 現状と課題 12 洪積世人と沖縄(渡辺直経) 「沖縄タイムス」 1973年3月20日
- 沖縄研究 現状と課題 13 必要な三つの視点(国分直一) 「沖縄タイムス」 1973年3月21
日

- 沖繩研究 現状と課題 14～15 方言研究ふたつの問題 (上村幸雄) 「沖繩タイムス」 1973年3月23日～24日
- 沖繩研究 現状と課題 16 沖繩住民の遺伝的位置づけ (三澤章吾) 「沖繩タイムス」 1973年3月27日
- 沖繩研究 現状と課題 17 後進藩薩摩と琉球 (山本弘文) 「沖繩タイムス」 1973年3月28日
- 沖繩研究 現状と課題 18 南島歌謡と芸能 (比嘉 実) 「沖繩タイムス」 1973年3月29日
- 沖繩研究 現状と課題 19 日本古代史と沖繩 (牧瀬恒二) 「沖繩タイムス」 1973年3月30日
- 沖繩研究 現状と課題 20 八重山への文化伝来 (牧野 清) 「沖繩タイムス」 1973年3月31日
- 沖繩研究 現状と課題 21 成果あげた民俗学 民族学 社会学は何を加えうるか (与那国 暹) 「沖繩タイムス」 1973年4月3日
- 沖繩研究 現状と課題 22 女性史研究の視点 (宮城栄昌) 「沖繩タイムス」 1973年4月6日
- 沖繩研究 現状と課題 23 芸能史研究の空白 (矢野輝雄) 「沖繩タイムス」 1973年4月10日
- 沖繩研究 現状と課題 24 沖繩に対する姿勢と今後の研究課題 (仲松弥秀) 「沖繩タイムス」 1973年4月12日
- 沖繩研究 現状と課題 25 農村社会学と沖繩農村の研究 (蓮見音彦) 「沖繩タイムス」 1973年4月17日
- 沖繩研究 現状と課題 26～27 奄美研究とその動向 (東 喜望) 「沖繩タイムス」 1973年4月18日～19日
- 沖繩研究 現状と課題 28 沖繩近代文学の研究 (岡本恵徳) 「沖繩タイムス」 1973年4月20日
- 沖繩研究 現状と課題 29 史料発掘と総括 (友寄英一郎) 「沖繩タイムス」 1973年4月27日
- 沖繩研究 現状と課題 30 歴代宝案 その別集と新伊勢物語 (宮田俊彦) 「沖繩タイムス」 1973年5月6日
- 沖繩研究 現状と課題 31 相互批判の必要性 近代史研究の現状に即して (金城正篤) 「沖繩タイムス」 1973年5月22日
- 沖繩研究 現状と課題 32 海洋的なりズム感—民族の音楽の形成と沖繩音楽 (小島美子) 「沖繩タイムス」 1973年6月2日
- 沖繩研究 現状と課題 33 地割制度と協同体—旧慣の評価をめぐって (松田賀孝) 「沖繩タイムス」 1973年6月19日
- 沖繩研究 現状と課題 34 柳田国男と沖繩 (伊藤幹治) 「沖繩タイムス」 1973年6月20日
- 沖繩研究 現状と課題 35 現代歴史の転換点に立って (新崎盛暉) 「沖繩タイムス」 1973

- 年6月21日
 沖縄研究 現状と課題 36~37 琉球文学の研究受容 (嘉味田宗栄) 「沖縄タイムス」 1973
 年7月17日~18日
 座談会 地域への視点—その問題点と可能性 (米須興文 高良倉吉 栗国安雄 安里英子)
 「沖縄タイムス」 1978年1月13日~15日
 「沖縄学・市民講座」を前に、講師のプロフィール「沖縄タイムス」 1978年9月19日~27日
 ことしの回顧 (県内) 学術 (沖縄研究) (高良倉吉) 「沖縄タイムス」 1978年12月22日
 史料の保存利用めぐり緊急課題—史料編集所の状況と文書館構想— (大城将保) 「沖縄タイム
 ス」 1979年3月3日~6日
 沖縄文化協会三十年のあゆみ (外間守善) 「沖縄文化」 第15巻第2号 (第51号) (1979.
 3)
 日本学術会議と沖縄の学術体制 (棚原健治) 「沖縄タイムス」 1979年7月22日
 沖縄文化研究の座標軸 (外間守善) 『伊波普猷論』収録 沖縄タイムス社刊 (1979年9月)
 沖縄学の新しい脱皮 (外間守善) 「読売新聞」 1974年10月7日 『伊波普猷論』収録 沖縄
 タイムス社刊 (1979年9月)
 沖縄学の発展とその課題 (外間守善) 「法政」5 (10) (1978. 12) 『伊波普猷論』収録
 沖縄タイムス社刊 (1979年9月)
 久米島総合調査研究への展望 法政大学中文研・外間守善氏にきく 「沖縄タイムス」 1979年
 10月9日~10日
 「沖縄研究史」書誌稿 1~4 (新城安善) 「びぶりお 琉球大学附属図書館報」 第47号~
 第50号 (1980年9月~1981年4月)
 「八重山文化研究会」十年のあゆみ 『八重山文化論集』 第2号 (1980年3月)
 沖縄研究—この一年 (仲地哲夫) 「沖縄タイムス」 1980年12月28日、30日
 アメリカにおける沖縄研究の状況 (崎原 貢) 「沖縄史料編集所紀要」 第6号 1981年3月
 三周年の南島文化研究所・その実績と課題 (三木 健) 「琉球新報」 1981年5月12日
 沖縄古代文化をめぐって—沖縄からの文化・沖縄への文化 (沖縄タイムス社・小学館共催)
 「沖縄タイムス」 1981年11月10日~19日
 十年の軌跡と'81年の回顧 沖縄研究 (社会・人文科学) (仲地哲夫) 「沖縄タイムス」
 1981年12月23日~25日
 復帰十年の沖縄学—その総括と展望—「琉球新報」 1982年1月5日~9月11日
 南島研の現状と課題 (来間泰男) 「南島文化」 第15号 (1982年2月)
 復帰10年と沖縄文化 (外間守善) 「沖縄タイムス」 (夕刊) 1982年5月8日、10日
 復帰十年と沖縄文化 (外間守善) 「琉球新報」 1982年5月11日~12日
 座談会 南島研究をめぐって (仲本正智 宮良安彦 比嘉 実 名嘉真三成 田畑千秋 松本泰
 文) 「国文学—解釈と鑑賞」 第47巻第9号 (1982年8月)
 「地域史まつり」への期待 (仲地哲夫) 「琉球新報」 1982年10月8日

- 沖繩文化の古層を考える 法政大学が国際シンポ 「沖繩タイムス」(夕刊) 1982年10月9日
- 沖繩文化の源流を考える 国際シンポジウム 「沖繩タイムス」(夕刊) 1982年10月11日
- 「沖繩文化の古層を考える」 国際シンポジウム 法政大学沖繩文化研究所主催 「琉球新報」
1982年10月12日
- 沖繩研究 国際シンポジウム 何が課題か(外間守善) 「琉球新報」 1982年10月13日
- 地域史の摸索—シンポジウム地域史の課題— 「沖繩タイムス」(夕刊) 1982年10月14日～16日
- 地域史の課題—地域史まつりのシンポジウムから 「琉球新報」 1982年10月14日
- 外国における沖繩研究—国際シンポ・パネラーの横顔(饒平名健爾) 「琉球新報」 1982年10月15日
- 沖繩研究国際シンポジウム—沖繩文化の源流を考える(沖縄県主催) 「琉球新報」 1982年10月15日
- 沖繩文化の源流を考える 国際シンポジウムから 「沖繩タイムス」(夕刊) 1982年10月18日～11月6日
- 東京シンポジウム「沖繩文化の古層を考える」を聴いて—外間守善氏への手紙(新里恵二) 「沖繩タイムス」(夕刊) 1982年10月18日
- 「沖繩文化の源流を考える」を聞いて(大城立裕) 「沖繩タイムス」(夕刊) 1982年10月19日
- 沖繩文化の源流を考える 沖繩研究国際シンポジウム(討論) 「琉球新報」 1982年10月19日～20日
- 沖繩文化の源流を考える 沖繩研究国際シンポジウムに参加して(金城正篤) 「琉球新報」 1982年10月20日
- 沖繩における神観念と文化的特質—国際シンポ・外国研究者の報告を聴いて(与那国 暹) 「琉球新報」 1982年10月21日
- 「沖繩研究国際シンポジウム」総括から(外間守善) 「琉球新報」 1982年10月21日
- 沖繩研究国際シンポ終えて—東京大会をめぐる新里恵二さんへの返信(外間守善) 「沖繩タイムス」(夕刊) 1982年10月28日～29日
- 新時代迎えた沖繩研究—私の国際シンポジウム観—(高良倉吉) 「沖繩タイムス」 1982年11月17日～18日
- 沖繩文化の源流を考える 国際シンポジウム〈研究の現状と課題〉報告
- 歴 史 ①～④(高良 倉吉) 「琉球新報」 1982年11月25日～28日
- 民 族 ①～④(比嘉 政夫) 「琉球新報」 1982年11月30日～12月3日
- 考 古 ①～⑤(高宮 廣衛) 「琉球新報」 1982年12月4日～9日
- 文 学 ①～③(池宮 正治) 「琉球新報」 1982年12月14日～16日
- 民族音楽 ①～④(金城 厚) 「琉球新報」 1982年1月11日～14日
- 芸 能 ①～③(本田 安次) 「琉球新報」 1983年1月15日～19日
- 言 語 ①～③(屋比久 浩) 「琉球新報」 1983年1月20日～22日

工 芸 ①～② (安次富長昭) 「琉球新報」 1983年1月23日～25日

82年回顧 沖縄研究 (田名真之) 「琉球新報」 1982年12月25日

沖縄'82年 沖縄研究 (仲地哲夫) 「沖縄タイムス」(夕刊) 1982年12月25日

座談会 なぜ今 沖縄研究か 外国の研究者を囲んで (ヨーゼフ・クライナー 金子エリカ アルネ・レックム 外間守善) 「琉球新報」 1983年1月4日～8日

近代八重山における技術・学問について一家譜など中心に (新城敏男) 「石垣市史のひろば」第4号 (1983年3月)

沖縄学入門 総合特集 「月刊言語」 第12巻第4号 (1983年4月)

座談会 沖縄学への招待 (中本正智 比嘉 実 仲程昌徳) 「月刊言語」 第12巻第4号 (1983年4月)

近代日本の民間学と沖縄 (講演) 沖縄県立博物館主催 (鹿野政直) 「沖縄タイムス」(夕刊) 1983年4月6日～11日 「琉球新報」 1983年4月16日～21日

沖縄学の普及をめざす (大原哲夫) 「図書新聞」 1983年5月14日

宮古文化運動の現状と課題 (宮川耕次) 「地域と文化」 第20号 (1983年8月)

沖縄を語る (比屋根照夫) 「朝日新聞」 1983年9月29日 10月6日、13日

沖縄における学術研究・教育の体制整備について (勧告) 「日本学術会議月報」 第24巻第10号 (1983年11月)

83年回顧 (県内) 沖縄の研究 (西原文雄) 「琉球新報」 1983年12月16日～17日

沖縄学の三十五年—沖縄文化協会の足跡 (外間守善) 「沖縄文化」 第20巻第2号 (62号) (1984年3月)

沖縄学の三十五年—沖縄文化協会の足跡 (外間守善) 「琉球新報」 1983年12月26日～27日

沖縄に学ぶもの (講演録) 川崎市教育委員会主催 (沖縄学入門) (谷川健一) 「沖縄タイムス」 1984年10月16日～18日

「黒潮の流れに沿って 沖縄・奄美と川崎を結ぶ海上の道」 全国地名シンポジウム (小島美子 石井 忠 国分直一 小島瓊禮 谷川健一) 「沖縄タイムス」 「琉球新報」 1984年10月26日

南島史研究とその学際性—南島史学会沖縄大会から (村武精一) 「琉球新報」 1984年12月12日～13日

84年回顧 (県内) 沖縄・学術研究 (西原文雄) 「琉球新報」 1984年12月25日

沖縄学の現在・沖縄の現在 (鹿野政直) 「沖縄タイムス」 1985年1月9日～10日

沖縄学の現在 (早田輝洋) 「月刊言語」 第14巻第9号 (1985年9月)

85年回顧 (県内) 沖縄研究 (西原文雄) 「琉球新報」 1985年12月20日

沖縄学の位置 (関根賢司) 「沖縄タイムス」 1986年9月20日

考古篇

沖縄考古学の成果と展望 (高宮廣衛) 「南島文化研究所報」 第3号 (1978年12月)

考古学におけるグシク論争の整理と問題点 (安里 進) 「新沖縄文学」 第42号 (1979年8

月)

座談会 グシク・ウタキを考える(安里 進 池宮政秀 知念 勇 比嘉政夫) 「季刊沖縄アルマチック」 第2号(1980年1月)

八重山諸島の考古学界に関する最近の動向について(新田重清) 「第四紀研究」 第18巻第4号(1980年2月)

沖縄県下の発掘調査状況(大城 慧) 「青い海」 第102号(1981年4月)

1980年の考古各界の動向—南西諸島(知念 勇) 「月刊考古学ジャーナル」 第190号(1981年5月)

『八重山における原始古代文化の問題と試論』(大浜永亘著) 八重山文化研究会(石垣) 1982年2月刊

八重山考古学の課題(阿利直治) 「琉球新報」 1982年4月21日

1981年の考古学界の動向—南西諸島(中村 愿) 「月刊考古学ジャーナル」 第204号(1982年5月)

1983年の考古学界の動向—沖縄県(大城 慧) 「月刊考古学ジャーナル」 第218号(1983年5月)

八重山石垣市の考古学調査の現状(石堂徳一) 「南島考古だより」 第28号(1983年5月)

近世琉球の農業共同体的「村」の起源—仲松「古層の村論」と考古学的課題(安里 進) 「地方史研究」 第35巻4号(1985年8月)

沖縄の時代区分をめぐる一とくに弥生相当期からグスク時代—(当真嗣一) 「考古学研究」 第32巻第2号(1985年9月)

歴史篇

八重山古代史の研究—八重山の文化を考える過去・現在・展望(牧野 清) 「八重山毎日新聞」 1973年11月14日~17日

宮古郷土史研究—三年のあゆみ(砂川幸夫) 「宮古研究」 創刊号(1978年7月)

宮古郷土史研究会(砂川幸夫) 「宮古研究」 第2号(1980年3月)

沖縄における地域史づくりの方法(仲地哲夫) 「地域と文化」 第1号(1980年8月)

沖縄古代史研究の展望(高良倉吉) 『沖縄歴史論序説』収録 三一書房(東京) 1980年11月刊

沖縄における市町村史の課題(高良倉吉) 『沖縄歴史論序説』収録 三一書房(東京) 1980年11月刊

近代の沖縄歴史研究(高良倉吉) 『沖縄歴史論序説』収録 三一書房(東京) 1980年11月刊

沖縄原始社会史研究の諸問題(高良倉吉) 『沖縄歴史論序説』収録 三一書房(東京) 1980年11月刊

宮古郷土史研究会—1979~1980年度の歩み(砂川幸夫) 「宮古研究」 第3号(1981年3月)

沖縄近代史研究の現状と課題(西里喜行) 『論集・沖縄近代史—沖縄差別とは何か』収録 沖

- 縄時事出版（那覇） 1981年4月刊
沖縄近代史研究の視点と論点（西里喜行） 『沖縄近代史研究—旧慣温存期の諸問題』収録 沖縄時事出版（那覇） 1981年6月刊
沖縄歴史研究の将来（高良倉吉） 『沖縄歴史への視点』収録 沖縄タイムス社（那覇） 1981年8月刊
南島地名の現状—地名研究センター2周年目に（目崎茂和） 「琉球新報」 1983年5月31日
古琉球研究の諸問題—仲松弥秀・高良倉吉論争の検討（高城 隆） 「沖縄タイムス」 1983年9月30日～10月11日
明清代における中琉友好史（講演録）（陳捷先） 「琉球新報」 1983年10月3日～4日
「琉球王国」の評価・再論—高城 隆氏の「批判」を読んで（高良倉吉） 「沖縄タイムス」 1983年10月21日～22日
台湾学術文化交流の旅（島尻勝太郎） 「琉球新報」 1983年11月18日～24日
宮古郷土史研究会—1981～1982年度のあゆみ（砂川幸夫） 「宮古研究」 第4号（1983年12月）
台湾学術文化交流報告（田名真之） 「沖縄タイムス」 1983年12月12日～14日
東恩納寛悳の人と学問—東恩納賞の創設に寄せて（島尻勝太郎） 「琉球新報」 1983年10月21日～22日
東恩納寛悳の学風（小島瓔禮） 「琉球新報」 1983年10月24日～26日
台湾学術文化交流報告（我部政男） 「沖縄タイムス」 1983年12月5日～7日
台湾における琉球史の研究（講演要旨）（市古五文） 「琉球新報」 1983年7月23日
地域史研究の現状と課題（田里 修） 「地域と文化」 第23号（1984年2月）
古琉球研究の方法（高良倉吉） 「地域と文化」 第24号（1984年4月）
大貿易時代の遺産と現代—アジアと沖縄を見つめて—福州（田名真之） 「沖縄タイムス」 1984年8月2日
貿易陶磁（知念 勇） 「沖縄タイムス」 1984年8月3日
海外交流（又吉盛清） 「沖縄タイムス」 1984年8月4日
亀甲墓（名嘉真宜勝） 「沖縄タイムス」 1984年8月7日
獅子像（大城精徳） 「沖縄タイムス」 1984年8月8日
羅針盤（高良倉吉） 「沖縄タイムス」 1984年8月9日
龍船祭（比嘉政夫） 「沖縄タイムス」 1984年8月10日
漢詩と閩江（上里賢一） 「沖縄タイムス」 1984年8月11日
青石の謎（渡名喜 明） 「沖縄タイムス」 1984年8月13日
三線（池宮正治） 「沖縄タイムス」 1984年8月14日
大交易時代の遺産と現代—「アジアと沖縄」を見つめる視点（高良倉吉） 「沖縄タイムス」 1984年8月27日～28日
社説 沖縄学を深めよう—討論「大交易」への期待 「沖縄タイムス」 1984年8月22日

- 中国文化と沖縄一大貿易時代の遺産と現代（パネルディスカッションから） 「沖縄タイムス」
1984年8月29日～9月7日
- 大交易時代の沖縄（講演録）（曹永和） 「琉球新報」 1984年9月24日～28日
- 沖縄史のなかの宮古（仲宗根将二） 「地方史研究」 第35巻第4号（1985年8月）
- 琉球・沖縄—その歴史と日本史像（同題提起）（山本弘文 川平成雄 安良城盛昭） 「地方史研究」 第35巻第5号（1985年10月）
- 中琉関係史を探る—台湾・国際学術会議から（松島弘明） 「琉球新報」 1986年12月12日～18日
- 琉球王国成立論への視点（高良倉吉） 「月刊言語」 第16巻第1号（1987年1月）
- 社会・民俗篇**
- 沖縄の民俗研究史（宮良高弘） 『日本民俗学のエッセンス—日本民俗学の成立と展開』収録
ぺりかん社（東京） 1979年9月刊
- 沖縄'82 沖縄研究（社会人類学）（比嘉政夫） 「沖縄タイムス」（夕刊） 1982年12月27日
- 「ユタ」と沖縄社会—沖縄社会学会シンポジウムから社会精神医学の視点（高江洲義英） 「沖縄タイムス」（夕刊） 1983年1月4日
- ウェーバーの宗教社会学からみた巫（与那国 暹） 「沖縄タイムス」（夕刊9） 1983年1月25日～28日
- 参加記（陳哲夫 玉木一兵 中野澄子） 「沖縄タイムス」（夕刊） 1983年1月31日～2月5日
- 問題提起（新垣 勉 金城弘征 吉 茂 又吉正治 村野孝顕） 「沖縄タイムス」（夕刊）
1983年2月7日～15日
- ユタとシジタダシ（田名真之） 「沖縄タイムス」（夕刊） 1983年2月16日～17日
- 生と死の問題（比嘉康雄） 「沖縄タイムス」（夕刊） 1983年2月21日～22日
- 私の雑感（漢那豊子） 「沖縄タイムス」（夕刊） 1983年2月23日
- 反響に応じて（又吉正治） 「沖縄タイムス」（夕刊） 1983年2月28日
- 「ユタと沖縄社会」—その文化的・社会的背景をさぐるシンポジウムⅡ（沖縄社会学会主催）
「沖縄タイムス」 1983年1月24日
- ユタと沖縄社会 沖縄社会学会シンポジウム—その文化的・社会的背景を探る
- ウェーバーの宗教社会学からみた巫（与那国 暹） 「琉球新報」 1983年1月26日
- 沖縄の親族構造と民間巫者（比嘉政夫） 「琉球新報」 1983年1月27日
- 社会精神医学の視点から（高江洲義秀） 「琉球新報」 1983年1月28日
- 討論（友寄隆静 小禄玄信 大城立裕 与那国 暹 比嘉政夫） 「琉球新報」 1983年1月29日～2月5日
- シンポ印象記（高良倉吉） 「琉球新報」 1983年2月6日
- 婦人の立場から（外間米子） 「琉球新報」 1983年2月10日～11日
- 弁護士会への批判に答える（新里恵二） 「琉球新報」 1983年2月12日～15日

- 社会学への視点から (伊江朝章) 「琉球新報」 1983年2月16日
- 新里氏への反論 (高江洲義英) 「琉球新報」 1983年2月18日～19日
- 高江洲氏に再反論 (新里恵二) 「琉球新報」 1983年2月24日～26日
- 御嶽信仰との関連 (又吉正治) 「琉球新報」 1983年3月1日
- 論争を考える (高江洲義英) 「琉球新報」 1983年3月4日～6日
- 精神史的なアプローチ (高良倉吉) 「琉球新報」 1983年3月8日～11日
- 外国人による沖縄村落研究—社会人類学の視点から (比嘉政夫) 『外国人による日本地域研究の軌跡』 (石田 寛編) 収録 古今書院 (東京) 1985
- 移民を通してみた近代沖縄研究 (石川友紀) 「地方史研究」 第35巻第4号 (1985年8月)
- 教育篇**
- 『農業教育三十五年の歩み』 (沖縄県立中部農林高等学校論) 農業教育史編集委員会 1981年2月刊
- 沖縄県農業教育研究会の歩み (沖縄県農業教育研究会) 『沖縄県農業教育史』 収録 1982年3月刊
- 全国各地の研究者と研究動向—沖縄 (仲地重夫) 教育科学 国語教育 第334号 (1984年6月)
- 沖縄県下における小学校家庭科教育の現状と問題点 (藤原綾子 東門小百合) 「琉球大学教育学部紀要」 第30集 (第2部) (1987年3月)
- 沖縄における教育委員会制度—その歴史と課題 (嶺井正也) 「専修大学人文科学研究月報」 第116号 (1987年4月)
- 言語篇**
- 琉球方言研究の現状 (上村幸雄) 「沖縄タイムス」 1980年6月13日
- 沖縄言語研究センターの三年と今後 (上村幸雄) 「沖縄タイムス」 1981年6月5日
- 座談会 方言研究のあゆみ—歴史と展望 (上村幸雄 比嘉政夫 生塩睦子 屋比久 浩 加治工 眞市 高橋俊三 津波古敏子 中本正智 野原三義 名嘉順一 仲程昌徳) 『琉球の言語と文化』 (仲宗根政善先生古稀記念論集) 1982年6月刊
- 琉球方言研究の将来 (屋比久 浩) 「国文学 解釈と鑑賞」 第47巻第9号 (1982年8月)
- 琉球列島言語研究の現状と課題 (上村幸雄) 「琉球新報」 1983年11月14日～15日
- 琉球語・日本語の系統をどう考えるか—琉球列島の言語の位置 (中本正智) 「地方史研究」 第35巻第4号 (1985年8月)
- 沖縄文化史の視点—沖縄方言の源流— (一泉知永) 「琉球新報」 1986年8月5日～8日
- 琉球方言の言語地理学的研究 (I) (仲松竹雄) 「琉球大学教育学部紀要」 第30集 (第1部) 1987年3月
- 文学篇**
- 沖縄文学研究の視点 (外間守善) 『伊波普猷論』 収録 沖縄タイムス社 (那覇) 1979年9月刊

- 八重山歌謡研究史概観 (宮良安彦) 『南島歌謡大成』 4 (八重山篇収録 角川書店 (東京)
1979年10月刊
座談会 南島歌謡をめぐって (外間守善 山口昌男 大江健三郎) 『文学』 第52巻第 号
(1984年 6月)
琉球文学研究の課題 (池宮正治) 『地方史研究』 第35巻第 4号 (1985年 8月)

奄美篇

- 奄美近現代史の流れを訪ねて (中村安太郎) 『新沖縄文学』 第41号 (1979年 5月)
最近の奄美研究瞥見—社会人類学・民俗学の立場から (比嘉政夫) 『新沖縄文学』 第41号
(1979年 5月)
奄美の民間説話研究の問題 (山下欣一) 『新沖縄文学』 第42号 (1979年 8月)
座談会 奄美研究の現状と展望 (村武精一 山下欣一 喜舎場一隆 生田 滋 窪 徳忠 植松
明石 大胡欣一 加藤正春 横山 學) 『南島史学』 第17・18号 (1981年11月)
奄美・沖縄の歴史像の形成にむけて—奄美を視点として (山下欣一) 『地方史研究』 第35巻
第 4号 (1985年 8月)
(しんじょう やすよし 前整理係長)

新 着 図 書 案 内

※分類順リスト、最後の数字は分類番号である。

- 大正の雑誌記者 (半沢成二著) 中央公論社 1986年 070.28
史料保存と文書館学 (大藤修、安藤正人著) 吉川弘文館 1986年 018
現代読書教育を拓く (万屋秀雄著) 教育出版センター 1986年 019.2
新聞報道のあり方 (生田正輝著) 慶応通信 1986年 070.1
本・わが遍路 (鈴木実著) いちい書房 1986年 027.9
表現としての図書館 (岡村敬二著) 青弓社 1986年 010
情報文化論 (吉田貞夫、宮川清彦著) 法律文化社 1985年 007
バイオコンピューター (甘利俊一著) 岩波書店 1986年 007
高度情報社会 (小池澄男著) 学文社 1986年 007.3
情報の検索とデータベース (電子通信学会編) 電子通信学会 1985年 007.5
ユング派の夢解釈 (ジェームズ・A・ホール著) 創元社 1985年 146
生きることの哲学 (佐伯守著) 高文堂出版社 1986年 114.3
認知科学入門 (戸田正直 [ほか] 著) サイエンス社 1986年 141.2
哲学 (青木茂著) 学陽書房 1987年 101
知の商人 (水田洋著) 筑摩書房 1985年 130

- 日本宗教史 (笠原一男編) 山川出版社 1977年 160.21
- 自死の日本史 (モーリス・バンゲ著) 筑摩書房 1986年 121.1
- 錯乱の人間学 (岩津洋二著) 弘文堂 1986年 114
- 倫理学入門 (将積茂、岩淵剛編) 朝倉書店 1986年 150.1
- 歴史科学入門 (歴史科学協議会編) 三省堂 1986年 201
- 日本人の顔 (山折哲雄著) 日本放送出版協会 1986年 210.1
- セレベス・沖縄発掘古陶瓷 (鎌倉芳太郎著) 国書刊行会 1976年 200.2
- フランスの近代とボナパルティズム (西川長夫著) 岩波書店 1984年 235.064
- 開国の使者 (宮永孝著) 雄松堂出版 1986年 289.3
- 東アジアの変貌と国風文化 学生社 1986年 210.08
- ラバン (加藤博著) 大月書店 1986年 224.8
- 評伝宮武外骨 (大本至著) 社会思想社 1984年 289.1
- 地理学を学ぶ (竹内啓一、正井泰夫編) 古今書院 1986年 290.1
- 太平洋戦争 (家永三郎著) 岩波書店 1986年 210.75
- 見えないアジアを報道する (永井浩著) 晶文社 1986年 302.23
- 日本が独立した日 (マイケル・M・ヨシツ著) 講談社 1984年 319.253
- 法律家の論理 (CH. ペレルマン著) 本鐸社 1986年 321.16
- 資料日本国憲法 (永井憲一 [ほか] 編) 三省堂 1986年 323.4
- デュボン経営史 (小沢勝之著) 日本評論社 1986年 335.36
- 現代企業と財務会計 (阪本安一編著) 中央経済社 1986年 335.96
- 税制改革 (加藤六月著) 東洋経済新報社 1986年 345.1
- やさしい統計学 (田畑吉雄) 現代数学社 1986年 350.1
- 災害と情報 (東京大学新聞研究所編) 東京大学出版会 1986年 369.3
- メディアの興亡 (杉山隆男著) 文芸春秋 1986年 361.5
- わたしの教育人間宣言 (遠藤豊吉著) 筑摩書房 1986年 370.49
- 障害児の異議申し立て (宮崎隆太郎著) 三一書房 1986年 378
- 韓国の文化誌 (季家正文著) 泰流社 1986年 382.21
- 符号論序説 (喜安善市著) 共立出版 1984年 401
- 確率論的エントロピー (梅垣寿春、大矢雅則著) 共立出版 1983年 401
- インドの食生活に学ぶもの 農村漁村文化協会 1986年 498.53
- バイオビジネスの現場 (猪口修道著) ダイアモンド社 1986年 464
- プトレマイオス地理学 東海大学出版会 1986年 450.2
- 物性物理の世界 (伊達宗行著) 講談社 1986年 428
- 人 (ヒト) に成る (小原秀雄著) 大月書店 1985年 469
- 調理科学実験ハンドブック (福場博保、宮川金二郎編) 建帛社 1986年 594
- 第三の知性 (ジャック・ウェーバー著) 時事通信社 1986年 535.5

- 触媒実験ハンドブック (触媒学会編) 講談社 1986年 572.8
- 有限要素システム入門 (菊地文雄、岡部政之著) 日科技連出版社 1986年 501.34
- 原子力の経済学 (室田武著) 日本評論社 1986年 543.8
- 鋼橋設計資料 (橋梁研究会編) 技報堂出版 1986年 515.35
- ガウディの作品 (ファン・バセゴダー・ノネール、フランソワ・ルネ・ロラン著) 六耀社 1985年 523.9
- 食は東南アジアにあり (星野竜夫、森枝卓士著) 弘文堂 1984年 596.22
- 焼物の本 (バーナード・リーチ [ほか] 述) 共同通信社 1985年 751
- 工業統計学 (村上征勝著) 朝倉書店 1985年 501.19
- 二つのTが消る日 (水野隆徳著) 太陽企画出版 1986年 694.06
- 変革の日本農業論 (磯辺俊彦 [ほか] 編著) 日本経済評論社 1986年 612.1
- 食品のマーケティング (梅沢昌太郎著) 日通総合研究所 1986年 675
- 国鉄が消えた!?日 (松尾定行著) 日本経済評論社 1986年 686.21
- 農村社会地理学 (G.J.ルイス著) 大明堂 1986年 611.9
- 脱集団化へ向かう中国 (ルネ・デュモン著) 社会思想社 1986年 612.22
- アフリカはなぜ飢えるのか (ロイド・ティンバレイク著) 亜紀書房 1986年 611.39
- 造園学 (高橋理喜男 [ほか] 著) 朝倉書店 1986年 629
- 揺れうごく家族農業 (今村奈良臣著) 柏書房 1986年 611.76
- 維新期の街道と輸送 (山本弘文著) 法政大学出版局 1983年 682.1
- 無常と美 (目崎徳衛編) 春秋社 1986年 701.1
- 画家たちの原風景 (堀尾真紀子著) 日本放送出版協会 1986年 720.28
- ある映画の物語 (フランソワ・トリュフォー著) 草思社 1986年 778.04
- 植物の撮影法 (平野隆久著) 培風館 1986年 743.6
- ジオラマ論 (伊藤俊治著) リプロポート 1986年 740.4
- イスファハン (並河万理写真) グラフィック社 1986年 748
- 未来への記憶 (中川五郎著) 話の特集 1986年 764.7
- 最終演劇への誘惑 (佐伯隆幸著) 勁草書房 1987年 772.3
- 英語使いの英語 (中内正利著) 南雲堂 1986年 837
- 実践的知識の構造 (菅豊彦著) 勁草書房 1986年 801.01
- だから英語は面白い (村松増美著) サイマル出版社 1986年 830.4
- 話に生かす日本の古典 (渡辺富美雄、加部佐助編) ぎょうせい 1986年 809.4
- 現代英語の表情 (吉田一彦著) 研究社出版 1986年 835
- 和文英訳研究 (山田和男著) 研究社出版 1986年 836
- 言語と文化の構造 (芝垣哲夫著) 創元社 1986年 801.03
- 幕末・明治初期語彙の研究 (佐藤亨著) 桜楓社 1986年 814
- 良寛 (田中圭一著) 三一書房 1986年 911.152

- 一葉の憶ひ出 (田辺夏子、三宅花圃著) 日本図書センター 1984年 910.26
 ガラバーと批評 (ハロルド・ブルーム著) 国書刊行会 1986年 901.1
 姦通の文学 (トニー・タナー著) 朝日出版社 1986年 930.28 [会員委営読書図書回覧(英)]
 子どもの本の書きかた (ジョン・エイキン著) 晶文社 1986年 909 [日]
 大地への祈り (リビウ・レブリヤヌ著) 恒文社 1985年 979.1 [西]
 ソウル日記 (奥野弘著) 幻想社 1984年 915.9 [日]
 白熱化した言葉 (吉本隆明著) 思想社 1986年 910.28 [日]
 マザー・ゲース事典 (渡辺茂編著) 北星堂書店 1986年 909.03 [日]
 比較文学とは何か (ピエール・ブリュネル著) 白水出版センター 1986年 901.9 [英]
 異界の祝祭劇 (小笠原賢二著) 沖積舎 1986年 910.28 [日]
 文学としての聖書 (D. ロバートソン著) 教文館 1986年 933 [英]



(ブラウジング・コーナー)

図書館の利用法

先日通勤途中のバスの中での事だが、僕がすわっている側で、琉大の女子学生らしい二人が立ち話をしていた。聞くともなく聞いていたら、授業が終ってから次の予定の催しまでに3時間程の空時間があるという。一人の学生が「3時間もあるのだから一旦家へ帰ってから出直して来るわ。」「図書館で過せばいいんじゃないの。」「図書館で何するの。」図書館で何をするのではないだろう、この学生馬鹿じゃないかと思ったとたん、次の応答が僕の眠気を醒してくれた。「図書館で寝ていればいいじゃない、私図書館で寝る自信あるわよ。」なる程眠れる環境と勉強のできる環境とは相通ずる所がある。僕は感心したが、若い二人の女性の顔を見るのは、はしたないと思ったので見なかった。

(閲覧課 T. Y.)

図 書 館 事 情

〔第172回図書館運営委員会〕

日 時：昭和62年5月28日（木） 13：30～

場 所：図書館会議室

- 議 題：1. 図書館運営委員会の日程について
2. 視聴覚機器の運営に関する専門委員会の設置について
3. その他

- 報告事項：1. 昭和63年度概算要求について
2. 学内情報検索システム（URISON）について
3. ファクシミリの利用について
4. 九州地区国立大学図書館協議会（第17回）について
5. 昭和62年度国立大学附属図書館部課長会議について
6. 情報処理センター運営委員会について
7. その他

〔出張〕

昭和62年6月7日（日）医学部分館閲覧係長・平陽子 JOIS研修会 福岡 11日まで

昭和62年6月10日（水）参考調査係長・仲西盛秀 第6回国際セミナー参加 金沢 14日まで

昭和62年6月15日（月）学術情報係長・本郷清次郎 第12回沖縄地区係長研修 那覇・渡ヶ敷
27日まで

昭和62年6月29日（月）事務部長・重松多喜造 学術情報システム特別委員会ネットワーク専門
委員会及び第34回国立大学図書館協議会総会出席 群馬県草津 7月3日まで

昭和62年6月30日（火）館長・國府田佳弘 閲覧課長・山田勉 第34回国立大学図書館協議会総
会出席 群馬県草津 7月3日まで

昭和62年7月19日（日）医学部分館整理係長・豊平朝美 昭和62年度大学図書館職員長期研修参
加東京、筑波 8月8日まで

昭和62年8月21日（金）医学部分館長・金城清勝 医学部分館整理係長・豊平朝美 第35回九州
地区医学図書館協議会総会出席 鹿児島 22日まで

〔来館者〕

昭和62年6月17日（水）放送大学学園教務部地方教育課課長補佐・玉木信義氏 図書課管理係
長・重盛和也氏 修学指導課学務第二係長・佐々野義昭氏

昭和62年7月15日（水）宜野湾市立図書館設立プロジェクトチーム10名

昭和62年7月16日（木）首里東高校図書委員20名

〔講演会〕

昭和62年6月5日(金) 17:00～

講師：藤山虎也(県立芸大 図書・芸術資料館長)

演題：海水科学における海洋生物の挙動

医学部分館コーナー

〈オリエンテーション〉

昭和62年6月4日(木) 13:10-15:10 (医学科大学院生7人)

図書館利用及び情報検索のオリエンテーション

〈JOIS説明会〉

昭和62年7月29日(水) 13:10-14:30 分館会議室

説明者 鈴木 寿春氏(日本科学技術情報センター九州支所 JOIS担当)

なお、15:00-17:30迄臨床講義棟1Fで医学部教官を対象に説明があり75名が受講、その後、医学部分館での操作実習には31名が参加した。

〈閲覧業務電算化について〉

昭和62年10月1日の稼動に向けて、図書ID番号の現物はりつけ、書誌データの校正等の作業をへて、これまで22,522冊の書誌が入力された。

〈第35回九州地区医学図書館協議会総会〉

昭和62年8月21日 鹿児島大学附属図書館

宇宿分館及び同大学医学部会議室で開かれ、当館より金城清勝分館長、豊平朝美整理係長が出席した。

〈来館者〉

昭和62年7月17日 首里東高等学校 屋比久教諭他12名

——ビデオ資料の利用案内——

今回、下記の資料が図書館に入りましたので、皆様の御利用をおまちしております。なお、他の資料リストは、『びぶりお』第69号と第71号に掲載されています。

書名	番号	書名	番号
ビデオテープ 中国針灸	1 V146	ビデオテープ 中国針灸	7 V152
〃	2 V147	〃	8 V153

〃	3	V148	〃	9	V154
〃	4	V149	〃	10	V155
〃	5	V150	〃	11	V156
〃	6	V151			

高血圧症の診断と治療

- 1. 高血圧症の病態と予後 — V157
- 2. 高血圧症と心臓血管系 V158
- 3. 高血圧と脳卒中 V159
- 4. 高血圧症と腎臓 V160
- 5. 高血圧症の治療の進め方と薬剤の選択 V161

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第20巻 第3号 [通巻第76号]
 昭和62年9月1日 発行
 発行 琉球大学附属図書館 沖縄県西原町千原1番地
 電話 (09889) 5-2221 内線(2143) 編集 びぶりお編集委員会